教育センター通信

火床（ほど）の火の心を紡ぐ

第７号（通算第１３号）
平成２６年１０月２９日
三条市小中一貫教育推進課
教育センター　発行

校歌を斉唱（２日午後の部、嵐南小５年生）

In the future everyone will be world-famous for 15 minutes.

教育センター指導主事　丸山　巧

文部科学省は有識者会議等で英語教育の改革を検討し続けています。２０１３年１２月に発表された「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」で、具体的に以下の内容が示されました。

〇小学校中学年では、英語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを体験することで、コミュニケーション能力の素地を養うことを目標に、学級担任を中心とした外国語活動を行う。

〇小学校高学年では、読むことや書くことも含めた初歩的な英語の運用能力を養うことを目標に、専科教員を積極的に活用した教科としての英語を行う。

〇中学校では、身近な事柄を中心に、コミュニケーションを図ることができる能力を養うことを目標に、授業は英語で行うことを基本とし、内容に踏み込んだ言語活動を重視する。

（CEFR：欧州共通言語参照枠、英語検定等の外部検定試験を活用した検証）（下線は筆者）

上記計画は２０１８年度から段階的に導入され、小学校高学年に教科英語が週に３時間加わる予定です。小学校では、現在の各教科等の授業時数に影響が及ぶことは不可避です。上記計画には、モジュール授業を用いた時間割が例示されています。この方法は、１単位時間の授業を三分割し、１５分ずつ３日間で４５分の授業を行います。

諏訪東京理科大学の篠原菊紀教授は、ひとつの活動の理想的な単位は１５分と提唱しています。外国語活動、英語学習の指導は、一活動につき１５分をもとに構成してみてはいかがでしょうか。１５分で活動をまとめるには、活動内容・表現を精選し、単純な方法で「自分の気持ちや考えを英語で表現する」幅広い自己表現活動の機会設定が重要で、ＩＣＴ機器も有効です。

各種試験や調査の結果、児童生徒の姿などをもとに各学校、中学校区での小中一貫カリキュラムの更新・改訂作業を継続し、英語好きの子どもたちをもっと増やしたいと思います。

タイトルはアメリカの芸術家、アンディ・ウォーホルの皮肉たっぷりの言葉です。記憶に残る英語学習を求め、小さな単位の活動を積み重ね、小学校と中学校を貫く外国語活動と英語教育の取組と実践を進めましょう。

小学校教員から学ぶ研修講座　～9月１９日～

中学校教員と比べて小学校教員の指導はきめ細やかな配慮があると言われます。実際にどのような配慮があるかを、受講者（中学校教員）が子ども役となって模擬授業に参加し、小学校の授業を体験しました。

教師役は教育センター小杉指導主事。４年算数「いろいろな四角形」の単元で、台形、平行四辺形の学習を終え、ひし形の定義や性質を学習する１時間の導入部。まず赤色の図形と黒色の図形を提示し、２つとも平行四辺形であることを確認しました。その後教師は２つの図形の違いを問いました。「黒の図形はつぶれているが、赤の図形はとんがっている」「赤は折るとぴったり重なる。黒はぴったりと重ならない」子どもの発言を受け、◎（学習課題）を「折るとぴったり重なる平行四辺形にはどんな秘密があるのか」と板書し、学習プリントを配付しました。子どもは個人作業、教師は机間指導へ。ここで授業終了！

※受講者に「中学校の授業の進め方や手だてで小学校と異なると感じていること」を事前にお聞きし、それを基に模擬授業を構成しました。

協議会では、「教えるところと考えるところを明確にしていた」「中学校では流しているところをちゃんとやっていた」「子どもの発表を生かして授業を進めていた」等、受講者は新鮮な驚きを述べていました。

【受講者の声】　*※評価「役に立った：１００％」「参加してよかった：１００％」*

- 小学校の授業の進め方にある意図を学ぶことができました。小学校の授業は一つ一つの発問や教具をていねいに考え、準備されていると思いました。
- 「中学校が学ぶというよりも自分の授業の足りない点を学ぶ」でした。大変参考になりました。
- 小中で互いに授業を見合って、子どもに合った授業ができるとよい。模擬授業後の意見交換も貴重な時間でした。大変参考になりました。
- 実際の授業を受けた上で知る事はとても勉強になりました。学力の中１ギャップ等をなくしていくためには小中の教師のギャップの解消が大切だと感じ、今後こういう研修に参加したい。

中学校教員から学ぶ研修講座　～9月３０日～

上記「小学校教員から学ぶ研修講座」と対になる講座です。今回は小学校教員が生徒役になり、中学校の授業を体験しました。教師役は桐生太先生です。先生は長年、中学校教員として経験を積まれ、昨年度から大崎小学校に勤務されています。「組み合わせ」の授業です。まず「大会のチーム数とリーグ戦の試合数」を求める導入問題が提示されました。「１試合では、２試合では、３試合では。」とテンポよく指名されて知的好奇心をくすぐられた生徒は次第に先生の術中にはまっていきました。チーム数は徐々に増え、最後は 100 チームの試合数が問題です。各自が思い思いの方法で自力解決に挑みました。こつこつとやること、表などを使うときまりが見えてくること、最後は計算で簡単にできないかと考えることが算数・数学の大事なこととの指導をいただき、楽しい授業は終了しました。

後半の協議会では、和やかな雰囲気の中で、活発な意見交換が行われました。小中教員が互いに異校種教員から学ぶ姿勢が多く見られ、有意義な講座となりました。

【受講者の声】　*※評価「役に立った：１００％」「参加してよかった：１００％」*

- 模擬授業を通して、子どもを引きつける語り、課題提示の仕方を学ばせていただき、今後に生かして行きたいと思います。大変勉強になりました。
- ６年間でなく９年間を見通すことの大切さを改めて実感しました。中学校に行っても必要な自分で生きていく力、学ぼうとする力を身に付けさせるためには、どこを支え、どこを自由に伸ばしていくかについて考えさせられました。広い視野をもって取り組んでいこうという気持ちになりました。

第3回カリキュラムの活用、授業づくり講座・演習 ～9月16日・17日～

最初に、第２回目の講座で作成した「本単元で大事だと思う指導内容や指導方法」を踏まえ、「本時展開案の一部分（１０分程度）のプラン」を作成しました。その後、各教科内で、作成した指導案で模擬授業（一人１０分程度）を行いました。授業者が大切にした点をアピールした後、授業に入りました。普段と異なる設定に戸惑いながらも受講者は真剣に取り組んでいました。授業後、意見交換を行いました。

最後に指導主事が本講座・演習の成果と課題を自中学校区の小中一貫カリキュラムに加除訂正すること等を指導しました。

【受講者の声】　〇：国語　△：社会・生活　□：算数・数学　◇：理科

〇もっと多くの方に参加いただきたい。中学校単位での授業公開も行われているが、日々の授業に生かされ、指導することの意義を感じることができるような今回の研修はとてもありがたい。

△他の先生方の素晴らしい実践に触れ、自分の励みになりましたし、授業の一部を見ていただいたことで、「方向があまりずれていない」ということに少し安心しました。

□小学校１年生から中学校３年生までの９年間の発達段階がよく分かりました。皆さんの教材研究と授業づくりの素晴らしさに感心し、我が身を鼓舞せねばと思います。

□小学校の先生の指導を知ることができ、とても参考になりました。参加者も算数・数学についての知識が豊富でたくさんのアドバイスをいただきました。小杉先生のお話を聞き、改めて授業をしっかりとやらなければと感じました。夏休みに半日でも意見交換できると嬉しいです。

◇他の理科の先生方から意見をいただいてよかった。小学校の理科授業への理解が深まりました。

第2回ハイパーQU活用研修会 ～10月6日～

「講演会もよいが、より実践的な研修を！」という現場の願いに応え、下記内容の標記研修会を開催しました。

講師は都留文科大学特任教授の品田笑子様。小学校教員の経験があり、Ｑ－Ｕ創始者河村茂雄先生との共著も多く、全国各地の講演に飛び回られている方です。（本県出身者）

１「１０分で Ｑ－Ｕ 早分かり」と題してミニ講義
　Ｑ－Ｕ で分かるものは、①学校生活意欲尺度　②学級満足尺度　③学級ソーシャルスキル尺度

２「Q-U データ整理の基本３ステップ」を演習形式で。
　①全員の位置の視覚化（出席番号、記号、色分け等）
　②児童生徒のヘルプシグナルを探す（回答一覧表で児童・生徒が１と２をつけた所をチェックする。回答一覧表から学級全体・個人の問題点を把握する。）
　③「学校生活意欲（いごこち）」「学級満足度（やる気）」「学級ソーシャルスキル（日常の）」の結果と照合する。

３　前項「２」をもとに学級集団の評価及び対応策の検討
　①問題発生、維持の要因をカードに記入　②カード提出・仲間分け・小見出し付け・優先順位付け
　③対応策を考える（行動レベル、得意技・できそうなこと、学級全体と個別の区別、役割分担等）
　※「２」「３」は、各中学校区のグループで、１学級の事例をもとに作業・討議を行いました。

【受講者の声】

- 具体的に分析方法（手順等）を教えていただき、すぐに自学級の傾向を調べて実践できそうです。
- Q-Uの分析はもちろん、児童の様子から対応策、声がけなど普段の指導に役立つお話がいくつもあり、参加してよかった。明日から、学んだことを子どもたちに返していきたい。
- 何となく感じていたことが分析をしてみて鮮明に浮かび上がって驚きでした。
- 事例（Q-U結果）を基に話し合うことで具体的な手だてや問題点を考えることができてよかった。

各中学校区における小中一貫教育の紹介　～その５～

第二中学校区

９月３０日、一ノ木戸小体育館に、第二中学校全校生徒と一ノ木戸小６年生が集まり､「いじめ見逃しゼロスクール集会」が行われました。開会の挨拶で生徒会副会長が「二中、一小が明るく過ごしやすい学校になるよう、この集会で言葉の力・遣い方について真剣に考えましょう。」と訴えました。

討論会では、代表の小学生２名と中学生３名が、言葉の力について激論を交わしました。「言葉には、人を励ましたり元気付けたりするプラス面と、人を悲しませたり傷つけたりするマイナス面がある。」「なぜ人は言葉で人を傷つけてしまうのか？」「よい言葉を自分から発すると、よい言葉が返ってくる。」等々、次々とよい意見が出てきました。

「中学校専門委員会のいじめ見逃しゼロ企画」の発表ではいじめ撲滅挨拶運動（応援）、君の心、健康チェック（保健）心が休まる一節紹介（図書）、トラブル回避見回りキャンペーン（体育）…。素晴らしい取組が次々と発表されました。最後に「いじめゼロ宣言」を小学生と中学生代表が読み上げ、全員が復唱しました。

・私たちは、相手の立場になり、思いやりの心をもって、周りの人に接します。
・私たちは、いじめをしている人をみたら、勇気をもって注意します。
・私たちは、いじめを「しない」「させない」「見逃さない」の心をもって、学校生活を送ります。

【１１月以降の主な取組】

・第２回生活習慣チェック週間：11/4～17　・第２回小中一貫教育推進協議会：11/25
・立会演説会への５年生、６年生の参加：12/2　・第４回小中合同研修会：12月
・家庭学習強調週間：2/2～/18　・第３回小中一貫教育推進協議会：２/24
・乗り入れ授業：２学期は５年生４学級で実施予定（１学期は６年生３学級で実施）

第三中学校区

１０月１０日、第三中学校体育館に、第三中学校全校生徒と三条小学校、裏館小学校、上林小学校の６年生が集まり、新潟お笑い集団ＮＡＭＡＲＡの髙橋なんぐ様を講師に迎え、「いじめ見逃しゼロスクール集会」が行われました。生徒会代表の「講師の方のお話をよく聞き、いじめについてよく考えましょう。」という言葉でスタートしました。

講演は｢あなたが笑えば　世界が笑う｣という演題です。講師は、参会者を笑いで楽しませながらも、「人それぞれはいろいろな考えをもっていて、それらを理解すること」「状況判断が難しい場合でも、自分で考えをもつこと」の大切さを訴えました。

続いて講師の指導で、異学年グループ（小６から中３の各学年で構成）による交流活動を行いました。自己紹介やクイズで楽しんだ後、「どこからがいじめか？」「自分がいじめられた場合やいじめられている人を見た場合にどうするか？」を考え、紹介し合いました。どのグループでも真剣に考え話し合う姿が見られました。

最後は小学生、中学生一人ずつによる感想発表です。小学生は「いじめについて考えるのは難しかったけど、いい経験になった。」、中学生は「今日の経験を生かして頑張っていきましょう。」と、それぞれが堂々と発表し、集会を終えました。

【１１月以降の主な取組】

・第３回家庭学習強調週間 11/13～20（※第４回は 2/２～9）・小５体育授業交流：11/25
・小３音楽交流：11/26　・小６バスケット交流：11/27　・小４、中１竹箸作り：11/28
・１日体験入学：１/28　・小１、２雪遊び交流：２月上旬　・小中一貫教育推進協議会：２月末